

鈴木棠三先生

〈年譜〉

- 1911年12月 静岡県庵原郡飯田村（現・清水市）に生まる 本名・脩一
- 1929年4月 県立静岡中学校を経て国学院大学予科入学
- 1931年3月 同 予科修了
- 4月 国学院大学学部国文科入学
- 1934年3月 同 国文科卒業
- 4月 中学校国語教科書の編集に従事す（至、1935年3月）
- 以降 柳田国男の指導により農村・漁村の民俗および口承文芸の調査に従事す
- 1935年4月 国学院大学学部研究科在籍
- 官弊大社稲荷神社奨学金を受け、折口信夫の指導の下に「特殊神事の民俗学的研究」に従う
- 1937年3月 国学院大学学部研究科修了
- 4月 財団法人農村更生協会主事
- 1945年 同 協会八ッ嶽伝習中央農場総務部長
- 内閣総務課の委嘱により内閣文庫所蔵の貴重本2万4千余冊の疎開及び管理に任ずる
- 1950年 農林省農業総合研究所の委嘱により「諏訪地方の相続制」に関する調査研究を行なう
- 1955年3月 財団法人農村更生協会退職
- 4月 以降 著述に従う
- 1956年4月 国学院大学講師（至、1958年3月）
- 1959年4月 女子栄養大学講師（至、1960年3月）
- 1966年4月 白梅学園短期大学教授
- 1982年3月 白梅学園短期大学教授を定年退任

〈著作目録〉

- 1937年 『川越地方昔話集』（民間伝承の会）
- 1939年 『佐渡昔話集』（民間伝承の会）
- 1942年 『佐渡島昔話集』（三省堂）
- 1955年 『類語辞典』（共著 東京堂）
- 1956年 『故事ことわざ辞典』（東京堂）
- 1958年 『くったんじじいの話』（未来社）
- 『続 故事ことわざ辞典』（東京堂）
- 1959年 『ことば遊び辞典』（東京堂）
- 1960年 『随筆辞典（風土民俗編）』（東京堂）
- 1961年 『ことわざ歌留多』（東京堂）
- 『しゃれ』（東京堂）
- 1962年 『ことわざ処世術』（東京堂）

- 1963年 『俳説ことわざ辞典』(東京堂)
 『擬人名辞典』(東京堂)
 『なぞの研究』(東京堂)
- 1970年 『金兼藁』(自家版)
- 1972年 『対馬の神道』(三一書房)
- 1973年 『安楽庵策伝ノート』(東京堂)
- 1974年 『近世紀行文芸ノート』(東京堂)
- 1975年 『しゃみしゃっきり』(未来社)
 『ことば遊び』(中央公論社)
- 1976年 『大伴神主家家譜集』(鶴岡八幡宮)
 『鎌倉紀行篇』(共著 東京美術)
- 1977年 『日本年中行事辞典』(角川書店)
- 1978年 『金具屋年代記』(自家版)
- 1979年 『日本語のしゃれ』(講談社)
- 1981年 『なぞの研究』(講談社)
- 1982年 『日本俗信辞典』(角川書店)
 『落首辞典』(東京堂)
- 1984年 『狂歌鑑賞辞典』(角川書店)
- 1985年 『日本職人辞典』(東京堂)
 『通名・擬人名辞典』(東京堂)
 『中世なぞなぞ集』(岩波書店)
- 1986年 『醒睡笑』(上・下)(岩波書店)
 『日本のなぞなぞ』(岩波書店)
 『醒睡笑研究ノート』(笠間書院)

※ 他に古典の校註約30点及び雑誌掲載約100篇あり，省略